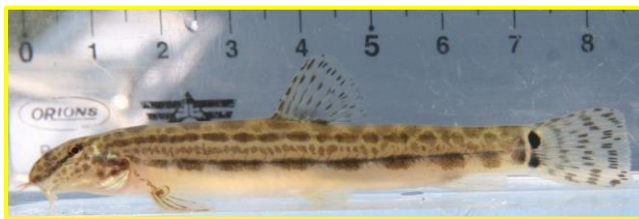
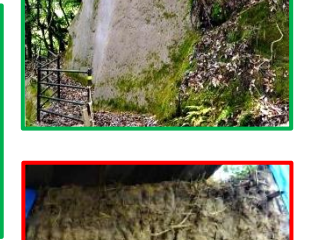
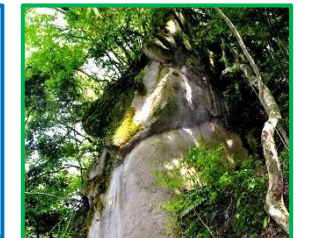




那珂川町自然環境観察員 2017年度 観察結果報告書



動物班

調査の実施方法

- 場 所 裂田溝周辺、中ノ島公園、山田水辺公園、南畑ダム、五ヶ山ダム 等
- 時 期 5月25日、7月1・27日、8月21日、9月15日、1月14日
- 方 法 目視(双眼鏡等含む)と聴覚による確認・写真撮影や捕獲による確認

見つけた生きもの・コメント



1) スナヤツメ

裂田溝や中ノ島公園でスナヤツメの生息が確認されました。幼生期は、目が未発達ですが、4年目の秋に写真のような成体となり、目がはっきりします。7つの呼吸孔とあわせて8つの目に見えるのでヤツメウナギと呼ばれることがあります。福岡県の絶滅危惧ⅠB類^{※1}、環境省の絶滅危惧Ⅱ類^{※2}に指定されています。

※1 絶滅危惧ⅠB類：ごく近い将来、野生絶滅の危険性が高い種

※2 絶滅危惧Ⅱ類：絶滅の危険が増大している種



2) 水辺教室の様子とサワガニ

水辺教室をするとサワガニなどたくさんの生きものが見つかります。サワガニはきれいな川にしか住めないの、那珂川がきれいな川であることがよくわかります。水辺教室に参加してくれた子どもたちは、私たちよりも上手に生きものを探してくれました。



3) アオバズク

夏鳥として渡来し、夕方から夜中にホッホーとよく鳴きます。大木の樹洞に営巣します。今年の夏も那珂川町にやってきました。町内に古い大木が残る環境がお気に入りのようです。福岡県の絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。



①気付いたこと：水辺教室は保護者同伴であれば、小学校低学年や未就学児でも参加は可能で、予想以上に若い親（特に母親）が興味を示し、それにつられて子どもたちも積極的になるという現象が見られました。

②わかったこと：那珂川の水質はとてもきれいですが、自然の豊かさの評価点は、かろうじて「豊かな自然が残る河川」をクリアしている状況です。

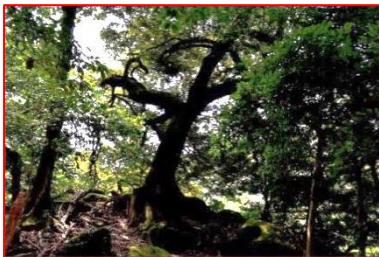
③伝えたいこと：動物全般として、鳥類などの陸生動物ではそれほどの懸念材料は見当たりませんが、希少魚類の減少、絶滅が心配です。河川の改修などの時には可能な限り、事前に話し合いの機会を設けてほしいと思います。

植物班

調査の実施方法

- 場 所 筑紫耶馬溪、五ヶ山一の岳 等
- 時 期 5月7日、9月11日、12月9日
- 方 法 目視による確認

見つけた生きもの・コメント



1) スダジイ

ブナ科の木で、樹高 15～25mの常緑広葉樹です。筑紫耶馬溪上部の森林は、スダジイ林として環境省の特定植物群落に指定されています。他にタブノキ、クロガネモチ、カゴノキの自生も確認でき、豊かな森林が形成されています。



2) ツルシキミ

一の岳山頂に自生するツルシキミを確認しました。ミカン科の植物で、幹の株は地面を這って上部に立ち上がりま。おいしそうな実をしていますが、有毒で、シカが食べない植物の一つです。



3) ハダカホウズキ

草丈 60～90 cm の多年草です。山地のやや湿った林縁に見られます。赤い実は 11～12 月に見られます。この植物の名前は、実が袋を取ったホオズキに似るとして名が付けました。



4) 安山岩石確認

那珂川町の山岳は全て花崗岩からなりますが、一の岳の山頂部の一部に花崗岩の上に安山岩が存在しました。この安山岩の存在の理由が不明で、地形地質班と協力して調査中です。

気が付いたこと、わかったこと、伝えたいことなど

那珂川町の森林面積は、那珂川の総面積の 73% を占めています。そんな那珂川には多様な植物を見ることができます。

標高の高い山地にはアカガシ、ミズナラ、ブナ等の群落で森林が形成され、標高の低い山地にはアラカシ、コナラ、クロキ等を中心に森林が形成されています。

那珂川の上流にダムが建設され、また河川改修工事により那珂川上流・下流の植生が大きく変化しました。今後も那珂川の植物の変化を調査していきたいと思ひます。

地形・地質班

調査の実施方法

- 場 所 現人橋付近的那珂川のかわら、轟橋付近 等
- 時 期 5月20日、9月2日、10月15日
- 方 法 かわらの石ころを調べたり、工事現場を見せてもらう

見つけたもの・コメント



1) 石ころの観察から山のでき方を考える

上流から流れてきた石ころをしらべ、脊振山や九千部山のでき方を考えてみました。山のでき方には火山と地盤隆起とがあります。石ころの大部分は花崗岩（みかげ石）で、他に少量の変成岩類、火山岩類などがありました。このことから脊振山や九千部山は、地盤が隆起して出来たものと考えられます（脊振山や九千部山が火山爆発することはありません）。

2) 那珂川の左右岸に広がる平野のでき方を考える。

町役場近く、轟橋付近の堤防工事現場で、掘削された斜面を調べ、私たちの住んでいる那珂川沿い平野の地下の地盤状況を知ることができました。



気が付いたこと、わかったこと、伝えたいことなど

- ・今回の調査で、かわらの石ころの大部分は花崗岩で、上流の脊振山や九千部山は地盤が隆起して出来た山であることがわかりました。
- ・轟橋付近の地盤は、表層の厚さ4m程が砂や粘土、砂礫からなる段丘堆積層で、その下は風化花崗岩でした。これは那珂川沿いの平野の大部分は、表層に段丘砂礫層が分布し、その下には風化した花崗岩が分布していることを裏付けています。

